

(5) 特徴のある川まつり

以下、特色のある川まつりについては、詳細な記録作成をおこなった。

土甲呂地区【地図番号③】

【地域の概要】町北部に位置する土甲呂地区は世帯数43、人口122人、5組に分かれる。

氏神：住吉神社

祭神は住吉大社を祀る。

【行事の名称】川まつり

【行事の由来】第一に水難防止のためで、次に農家が昔から多かったので水への感謝の意味を込められているということであった。

【祭日】飾りを設置するのは毎年5月の2週目で、飾りの作成は8月の最終日曜と決まっていて。8月に作成したものを見年で飾る。

【行事の流れ】5月の2週目、神社・寺清掃から始まり、午前9時に蛭池の三島神社宮司が住吉神社に来てご祈祷。宮総代が川まつりの飾りを設置する。飾りを作成するのは8月の最終日曜日で、その日は朝から地区の男性全員参加で藁すきから始め、注連縄(しめなわ)作りを座元がおこない、川まつりの飾り作成を宮総代がおこなう。元々は行事ごとに注連縄を作成し、川まつりの飾りも当日作成していたが世話人の負担が大きくなつたため、8月末にすべての行事の縄細工を終らせる形となつた。春の願立ての際に三島神社から宮司がきてお祓いをおこなう。お祓いが済んだら飾りを設置。昔から作成には男性のみの集まりで、女性は供物や料理等の準備をするという風習であった。

【飾りの種類】ワラツト、ヒヨウタン、三連サカズキ

〈ワラツト〉長さ：63cm 胴回り：62cm ①竹を細く削ぎ、輪にしたものに稻藁を束で巻き付けていく。②円錐状に成形したものをそれに結び合わせ、2段藁苞状にする上部は三つ編みを作り、少しアーチ状にねじってまとめる。

〈ヒヨウタン〉長さ：34cm 胴回り：50cm ①藁を束にし、底部を結ぶ。②結んだところから裏返し、すいた藁屑を大・小それぞれ丸めて固定する。

〈サカズキ〉長さ：18cm 直径：大13cm 中11cm 小10cm ①しだれ柳の枝を使い、輪にしたものに稻藁を巻きつける。②円錐状に成形



昔、個人が使用していた藁こなし機
公民館で保管され、カザリ等の作成をおこなうときに活躍している



サカズキ作成 しだれ柳の枝に稲藁を束にして結んでいく



サカズキを3つ、重ねていく



3種のワラツト



カザリ拡大写真

古賀地区 【地図番号⑦】

【地域の概要】 町北東部に位置する古賀地区は世帯数 142、人口 439 人
12 組に分かれます。

氏神：三島神社

祭神は事代主命（別名、恵比寿様）、春日大神、住吉大神を祀る。

【行事の名称】 川まつり

【行事の由来】 古賀は西と東で分かれているが、昔から川まつりをしていたのは東古賀だけで、西ではおこなっていない。水難事故の防止、農業繁盛を祈願するといわれている。

【祭日】 毎年 4 月の最終日曜日に東古賀の参加できる男性陣で作成をおこなう。

【行事の流れ】 その日の朝に集まった若手（30 代～40 代）男性が作成時に使用する竹を 2 種類（男竹・女竹）、近くの竹林へ調達に行く。その間に前年度の飾りを堀から抜き、見本として使用する。稻藁を木槌で叩いて作成を始めるが、稻藁を編み、最後に強度を上げる目的として PP ロープを巻いていた。男性が作成している間に女性はコミュニティセンターで、ゆで卵、ワカメの酢の物、円錐状のオニギリ（ゴクサン）を準備する。飾りを設置した後は、コミュニティセンターでお弁当、ゴクサンを一人ずつもらって終了。

【飾りの種類】 ワラツト、ヒヨウタン、三連サカズキ、竹筒、御札

〈ワラツト〉 長さ：70cm 胴回り：50cm ①稻藁を束にし、底部を結ぶ。②竹を輪にし、そこに稻藁を結びつけ、苞状に成形。③上部はアゲマキ結びという手法でねじってまとめる。④最後に苞の胴回りを三つ編みで巻き仕上げる。

〈ヒヨウタン〉 長さ：47cm 胴回り：42cm ①稻藁を束にし、底部を結ぶ。②結んだところから裏返し、すいた藁屑を大・小それぞれ丸めて固定する。

〈サカズキ〉 長さ：28cm 直径：大 13cm 中 11cm 小 10cm ①竹を細く削ぎ輪にしたものに稻藁を巻きつける。②円錐状に成形し三つ連ねる。

〈竹筒〉 長さ：20cm ①竹をコップ状に成形。紐をかけられるように竹の一部を細く削ぎ成形。②その中に杉の葉を入れる。

【供物】 竹を設置する直前に入れる。

ワラツト：ゴクサン、イリコ、塩（全て適量）

竹筒：酒

竹竿：三島神社で事前にもらっていた御幣

昭和 55 年にテレビ局が取材にきたときの写真にも竹竿に御幣がついていた。



竹筒作成の様子



女性が円錐状のオニギリ（ゴクサン）を
コミュニティセンターにて作成
他に、ゆで卵、酢の物を準備する



アゲマキ結びをおこなっている



ワラツトにイリコを入れる



カザリ全体

蛭池（林ノ内）地区 【地図番号⑯】

【地域の概要】町東部に位置する蛭池地区は北区・中区・南区に分かれる。総世帯数 184、総人口 595 人、計 15 組に分かれる。

氏神：三島神社

主祭神は事代主命（別名恵比寿様）を祀り、相殿として春日大神、住吉大神、八幡大神、高良玉垂命を祀る。

【行事の名称】川まつり、川まつりさん

【行事の由来】町内でも堀の多い地域で、1年に1度や2度は子どもが亡くなっていたこともあり「水難事故防止」のためと言い伝えがある。

【祭日】例年4月第3日曜日に実施。地区の一斎清掃が終わり各場に分かれ、飾りを作成する。各組単位で作成、設置。

【行事の流れ】地区の一斎清掃をおこない、終わり次第、各組内に分かれ、飾りを作成する。飾りは各組内の中で手分けして作成する。それぞれ決まりではなく、女性も含め、その場にいた者で「私は小縄を作る」、「俺はヒョウタンを作るか」などと話し合って進めていた。地区の古老に聞くと、昔の人はもっと時間をかけて立派なものを作成していた、ということであったが、今は共働きも増え、集まる日が日曜日しかないことと、若者の地区行事に参加する回数が少なくなってきたことが問題になってきていたと話がでていた。

【飾りの種類】ワラツト、ヒョウタン、三連サカズキ、五連カツオブシ、竹筒

〈ワラツト〉長さ：71cm 脇回り：69cm ①竹を細く削ぎ、輪にしたものに稲藁を束で巻き付けていく。②上部、底部を結び固定。③竹に固定する上部はアゲマキ結びと呼ばれる手法でねじってまとめる。

〈ヒョウタン〉長さ：42cm 脇回り：47cm ①稲藁を束にし、底部を結ぶ。②結んだところから裏返し、すいた藁屑を大・小それぞれ丸めて固定する。

〈サカズキ〉長さ：38cm 直径：大 16cm 中：12cm 小：10cm ①竹を細く削ぎ、輪にしたものに稲藁を巻きつける。②円錐状に成形し三つ連ねる。

〈カツオブシ〉長さ：(稲藁で中央部分) 42cm 1本の長さは小 18cm～大 25cm ①木の枝を、長さ小～大5つ切落としそれぞれ皮を剥く。②バーナーで焼き目をつけ、カツオブシに模す。

【供物】ワラツト：鯛、ゴクサン、イリコ、塩

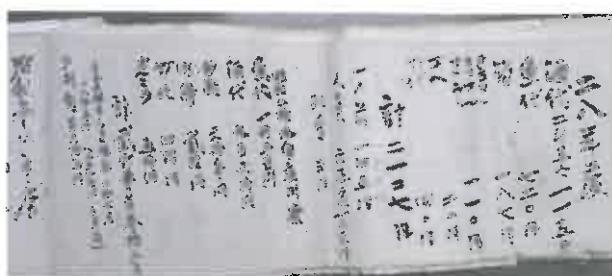
竹筒：酒



藁苞作成：竹の輪に稲藁を巻きつける



飾り拡大写真



蛭池 宇土・天神木には「川祭控」と記した
川まつりの準備物や、個数、かかった費用な
どが記載されている資料が残っている



全体写真

上八院地区 【地図番号④】

【地域の概要】町中央部西側に位置する上八院は全体で世帯数293、人口884人 上区が20、下区が7組に分かれる。

氏神：伊弉諾神社

町唯一の伊弉諾神社で祭神は伊弉諾の命、伊弉冉の命を祀る。本殿には見事な天井絵馬がある。

【行事の名称】川まつり、水神さんまつり

【行事の由来・変遷】由来についての記録はないが、宮総代によると「カッパが悪さをして堀に引きずり込む」という言い伝えがあり、水の事故を無くそうと川まつりをおこなっていると語っていた。その他に、堀の水は大切な農業用水ということで五穀豊穫の意味も持ち合わせている。

【祭日】5月5日

【行事の流れ】午前11時より伊弉諾神社にて鳴弦祈祷を執りおこなう。上八院では毎年、隣接する大川市木室の日吉神社から宮司1名、大木町蛭池の三島神社から宮司1名がくる。祈祷をおこなう際に川まつりの飾りも祭壇にあげる。

祈祷が終わると机を並べ、地域住民で竹輪と御神酒をいただく。皆が見える位置に飾りも立てかけるのが決まりである。竹輪を食べ終えたら地域住民はお札・お餅（角餅）をもらい、帰る。

お札のみを他13か所に立て、カザリを付けた竹は、伊弉諾神社敷地内の堀に立てる。地域住民によると、以前はお祭りも参加者が多かったため出店も出ていたという。

【飾りの種類】ワラツト、ヒヨウタン、サカズキ、竹筒、菊結び

〈ワラツト〉長さ：30cm（全体58cm）胴回り：48cm ①稻藁を束にし、底部を結ぶ。②竹を細く成形し輪を作成。③稻藁を竹に巻き付け苞状に成形。上部は小縄のようにねじってまとめる。④胴回りを三つ編みした稻藁で巻く。

〈ヒヨウタン〉長さ：26cm 胴回り（下部）38cm ①稻藁を束にし、底部を結び裏返し、瓢箪の形に成形する。②稻藁で作成した房付紐を巻く。

〈サカズキ〉長さ：全体で21cm 直径：大13cm 中11cm 小9cm ①針金を輪にし、稻藁を結び付けていく。②盆の形を成形していく際に膨らみを持たせるため三つ編みをした小縄と一緒に巻き付けていく。③三段目の大きい盆の底部に飾り紐を巻ける。

〈竹筒〉長さ：19cm ①竹をコップ状に成形。紐をかけられるよう桐で穴を開ける。

【供物】準備は宮総代がおこない、竹を設置する直前に入れる。

ワラツト：イリコ10匹程度、塩少々、ゴクサン4つ

竹筒：酒 ※お札は別に設置



祈祷行事のとき、飾りも棚に設置する



ご祈祷後の食事机を並べ竹輪、お茶を皆で食す。川まつりの飾りは中央に置き、皆が見えるように立てかける

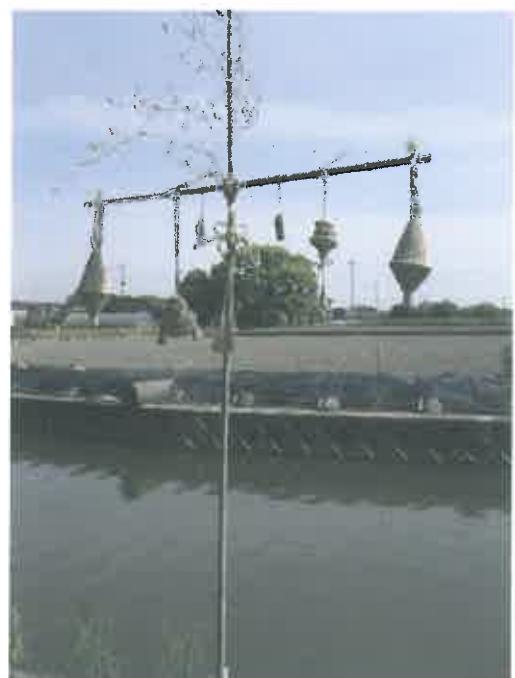


作成者が藁芭を作成するための機械も作り、とても精巧に糸を編むことができる



設置の様子

宮総代が協力し合い、神社敷地内の堀岸に立てる



カザリ全体

吉祥地区 【地図番号④⑦～⑨】

【地域の概要】町南西部に位置する吉祥地区は世帯数49、人口125人5組に分かれる。

氏神：三島神社

三島神社：祭神は事代主命（別名恵比寿様）、春日大神、住吉大神を祀る。

【行事の名称】川まつり

【行事の由来・変遷】川まつりがおこなわれるのは無量院。明治20年頃に建立された寺院で20年ほど前までは修行僧もいたが、現在は無人である。明治期に作成されたものと伝わる木版があり、これを版写した和紙を飾りの竹に挟む。以前は各家でもおこなっていたが、簡略化し三つの行事を同時におこなうようになった。

【祭日】毎年5月4日に実施し、三島神社の御祈祷を午後2時に開始。その後、無量院に移り百万遍をおこなう。それが終わり次第、川まつりの飾りを竹につけ、堀に設置をする。計5か所、隣の地区との境に立てる。

【行事の流れ】神社・寺清掃から始まり、午後2時に三島神社でご祈祷。午後3時に寺へ移動し百万遍をおこなう。百万遍は正確な時間等計らず大体の流れで執りおこなっていた。吉祥では川まつりだけではなく、百万遍と花祭りも同日開催されている。百万遍が終わったのち甘茶や豆、寒天など女性が準備していたものを食べる。

最後に寺総代が川まつりの飾りを設置。飾りは事前に寺総代が作成しているということであった。終わり次第、寺に戻り軽食を済ませ各自帰宅。

【飾りの種類】ワラツト、竹筒、御札

〈ワラツト〉長さ：40cm 脇回り：20cm ①稻藁を束にし、底部を結ぶ。②結んだところから稻藁を裏返して苞状に成形。上部は小縄のようねじってまとめる。

〈竹筒〉長さ：20cm ①竹をコップ状に成形。紐をかけられるように、一部残して輪にする。

【供物】準備は寺総代でおこない、竹を設置する直前に入れる。

ワラツト：イリコ、塩

竹筒：酒

竹竿：御札

全て量の指定は無く、適量。

御札は「天下和順 五穀豊穣 奉修肇無量壽佛寶號壹百万辻 日月清明 萬民快樂」



代々伝わる木版を使い、地域住民に配るための御札を作成



百万遍の様子



竹筒



竹にワラツト2個、竹筒2個、御札をつける



無量院前の堀に設置

(6) カザリの作成工程

大木の川まつりの特徴の一つがカザリである。地区によってカザリはそれぞれであるが、作成工程の記録を実施した。

【ワラツト】

1. 主軸となる竹をナタで1cm～2cmほど細かく割き、節をとるように削いでいく。40cm～60cm程の輪を作り、交わったところを針金や麻紐、タコ糸などで巻き、締める。以前は、藁で結び付けていた。
2. 竹の輪の周辺に稻藁を巻いていく。稻藁は縄いやすいように横槌で叩いて柔らかくしておく。稻藁の中心に竹の輪がくるように置き、稻束4～5本ずつをタコ糸や麻紐で調整し固定していく。



ナタを使い、竹を割いていく



輪を作り、針金で固定



横槌を使い、稻藁を叩く



竹の輪に稻藁を巻き、固定

3. 中心部を麻紐等で固定した後、藁の両端部を横槌で叩き藁を柔らかくし、3人1組あるいは2人1組で中心から30～40cm部分のところの両端を麻紐等でまとめる。ちょうど藁が菱型のようになる形を作る。



固定した藁の両端を叩く



両端を縛り、菱型に成形する

4. 2人1組になり、藁の両端一方は二つに分け、各々結び目から左縄いにした藁を三つ編み状に縄っていく。1人は藁の結び目部分を持ち、もう1人が三つ編み状に縄う。苞の中央部、竹に藁を結びつけていた部分には、別に作成していた三つ編みの紐を外周囲に回し、麻紐等でつける。もう一方は結んだ先10cm～15cm部分を切る。



三つ編みにしているところ



別作成の三つ編みを付ける



完成形



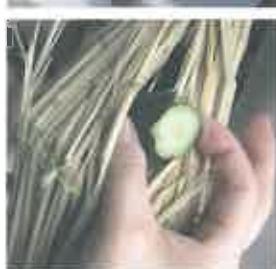
八町牟田下

- ・ゴクサン
- (円錐状オニギリ)
- ・イリコ
- ・塩



絵下古賀

- ・イリコ
- ・塩
- ・昆布
- ・サキイカ



前牟田西

- ・キュウリ (生)、
- ・オニギリ、
- ・カツオブシ
- (パック入) から選ぶ



道本

- ・水天宮の御札
- ・イリコ
- ・塩
- (酒は竹筒に)



侍島上

- ・ゴクサン
- ・キュウリの酢の物
- ・イリコ
- ・がめ煮 (筑前煮)



蛭池 (ほぼ全ての箇所)

- ・鯛 (苞から頭を出す)
- ・塩
- (イリコ、オニギリを入れる箇所あり)

出来上がった藁苞に入れるものは各地区で異なる。

【サカズキ (3連)】

1. 竹の輪に (写真では針金を使用している) 稲藁を二つ折りにして固定し、20 cm位のところで、円錐状になるようにする。このとき、先端部は止めない。大 (径約 13 cm) 中 (径約 11 cm) 小 (径約 10 cm) 程度のものを用意し、下から大中小にして重ねる。三つ重ねしたものの稻藁の先端部分を束にして麻紐で縛る。最後に藁がはみ出た部分、先端部 (盆の底になる部分) の藁を鋏で切って調整する。大の盆に紐をつける。



軸となる輪に稻藁を固定



重ねたところ



3段重ねの部分を縛る



紐をつけた状態

【特徴的な作り方】



大角西：手のひらサイズの盆



上八院：3連盆に飾り紐付き

【ヒョウタン】

- 稻藁を束にし、端から 10cm 位のところを麻紐で結ぶ。結んだ箇所が瓢箪の底の内側部分になるため、結び目を境に開いて横槌で叩く（加工するのに柔らかくするため）



先端（稻輪の根部分）を縛る



縛ったところを開き、横槌で叩く



- 製作中に切って余った藁屑をボール状（径約 30cm）にして、1 で作成した稻藁のなかに入れ込み、それを芯にして、藁で包み込むように円く作っていく。中央部分を麻紐で結び（飾り紐をつける地区もある）、瓢箪の下部分（径約 40cm）ができる。同じように上部も製作、瓢箪の形になるように成形し、瓢箪の口部分も最後に藁で結んで閉じる。上部の方が若干小さくなるように成形する。最後にはみ出た部分を鋏で切り、中心部には藁紐をつけ、結んだところがわからないように化粧する。（飾り紐をつける地区もある）



球体状にし、1で柔らかくした稻藁に入れ込む



一つ入れたら口を結び、もう一つ入れ瓢箪の形に成形



【特徴的な作り方】



牟田地区 飾り紐付き



侍島地区 細めのヒョウタン

【竹筒】

1. 節の両端に残し、両端から各々約15 cmの部分をノコで切る。
切り落とさないように、10 cm程度を残して、2つの竹筒がつながるように切る。2つの竹筒の間の残った部分を小刀で薄く（3mm～5mm）削いでいく。
2. 1人が竹を持ち、もう一人が薄くした竹の外側部分にガスバーナーを当て、外側が内側にくるよう二つ折りにして輪ができるように曲げる。2つの竹筒を揃え、中央部分を麻紐でしめる。



節を残し、切る



2つの間を薄く削ぐ



ガスバーナーで曲げているところ



完成形



出来上がった竹筒は竹に下げる堀までもって行き、設置するときに酒を注ぎ入れ、立てる。

【特徴的な作り方】



古賀（左）と大角東（右）は竹筒に杉の葉を入れる



八町牟田下、横溝本村など（他3か所）は曲げずに竹に桐などで穴を開け、麻紐を通して飾る



【カツオブシ】

1. 大きさは決まっていないが、長さ約15cm～20cm、径約5cm程度になるよう檍の木を切り、5本用意する。各々その木の皮をナタで剥いでいくが、中央は残し、両端を少しだけ削り、やや尖った形にする。(魚の形になるように)ガスバーナーやコンロで全体的に焼き、焦げ目をつける。
2. 稲藁で2つの大きな束をつくり、注連縄を作る場合と同様に左縄いになっていく。2つの縄った藁をさらに交互に回して縄い、その間に焼いた木を差し込んで固定する。



表面を剥ぐ

先端部分を研いだところ

バーナーで炙っているところ



稲藁に交互に固定する



上木佐木下：設置写真

【特徴的な作り方】



ナイロン紐を両端に巻く



藁縄を編み、先端部分を3つに
分け交互に編んで吊るす



紐で真ん中の部分を交互に2重に
巻き、両端を紐で支える

第1表 カザリー観表

地図番号	地区名	藁苞		瓢箪(数)	盆		竹筒		經節		札関係		その他
		箱	中身		数	連	数	中身	数	連	数	発行元	
①	ササブチ 笹瀬	1	オニギリ・塩・イリコ・酒										薬師如来を祀っている家を含む組で実施
②	ジッケンハイ 十間橋	1	鯛・オニギリ	1	1	3	1	酒			1	三島神社	
③	トコロ 土甲呂	2	無し	1	1	3							
④	フクマ 福間	1	昆布・塩・イリコ	1	1	3							
⑤	オオズミニン 大角西	2	ゴクサン・塩	1	1	1	1	笹の葉・酒					
⑥	オオズミヒガシ 大角東	1	オニギリ3~4個	1	1	3	2	笹の葉・酒			1	三島神社	
⑦	コガ 古賀	2	ゴクサン・塩・イリコ	1	1	3	2	笹の葉・酒			1	三島神社	年によって、アゲマキ結びあり
⑧	ムタ 牟田	4	鯛・塩・オニギリ	2	1	1	2	酒			1	三島神社	(壇前坊もおこなう) 藁苞は2種あり 棒状の苞2箇、円錐を合わせた苞2箇
⑨	ナカシマ 中島	1	イリコ入カンコロ・オニギリ				4	酒					竹筒は大小2個ずつ
⑩	ヨコミヨホンムラ 横溝本村	2	オニギリ・カンコロ	1	1	1	2	酒					
⑪	ドウボン 道本	1	御札・オゴク・イリコ・塩	2	2	1	2	酒					水天宮のお札 御札は藁苞の中に
⑫	マエムタヒガシ 前牟田東	4~5	オニギリ・キュウリ・市販の經節パック				1~2	酒	1	1	三島神社		
⑬	マエムタヒシ 前牟田西	子どもが 作成した 数	オニギリ・キュウリ・市販の經節パック (上記のうちどれか一つ)				2	酒			1	三島神社	
⑭	ヒルイケタス 蛭池(田頭)	2	鯛	1			1	酒	1	3	1	三島神社	
⑮	ヒルイケニシバル 蛭池(西原)	2	鯛・オニギリ	1	1	3	1	酒	1	3	1	三島神社	
⑯	ヒルイケショウカク 蛭池(正覚)	2	鯛	1	1	3	1		1	5	1	三島神社	
⑰	ヒルイケニシモブン 蛭池(西森分)	1	鯛・オニギリ	1	1	3	1	酒	1	3	1	三島神社	
⑱	ヒルイケヒヅモブン 蛭池(東森分)	1	鯛・オニギリ・イリコ・塩	1	1	3	1	酒	1	5	1	三島神社	
⑲	ヒルイケハヤシウチ 蛭池(林ノ内)	2	鯛・オニギリ・イリコ・塩	1	1	3	2	酒	1	5	1	三島神社	
⑳	ヒルイケウドテンジ 蛭池(芋土・天神木)	2	魚・イリコ・塩	1	1	3	1	酒	1	5	1	三島神社	カザリ中央にアゲマキ結び
㉑	ヒルイケキミタケシキ 蛭池(南・北本屋敷)	2	鯛	1	1	3			1	1	1	三島神社	
㉒	ヒルイケテラブン 蛭池(寺分)	2	鯛		1	2	1	酒	1	3	1	三島神社	
㉓	サムライジマ 侍島(納骨堂裏)	2	オニギリ・イリコ・塩・ガメ煮				1	酒			1	三島神社	
㉔	サムライジマ 侍島(平松橋)	2	ゴクサン・イリコ・塩・酢の物・カンコロ				1		1	3	1	三島神社	
㉕	カミキサキナカ 上木佐木中	2	未確認	1			1		1	3			
㉖	カミキサキシモ 上木佐木下	2	鯛・炊いた米・イリコ・塩	1	1	3			1	5	1	三島神社	鳴弦行事
㉗	エグコガ 絵下古賀	2	炊いたご飯・イリコ・塩・昆布・サキイカ	1	1		1	酒					別竹に鳴弦行事 カザリ中央にアゲマキ結び
㉘	エグコガ 絵下古賀	4	ゴクサン・イリコ・塩	1	1	3	1	酒	1	5			別竹に鳴弦行事 藁苞は2種あり。稻葉の苞2箇、カラ一い草の苞2箇。竹中央に「幹」の縞文字(文字は毎年後わる)。各世帯にゴクサン・チクワ・テンプラ・お神酒が配られる。
㉙	エグコガ 絵下古賀	1	イリコ・塩・煮物	1			2						
㉚	エグコガ 絵下古賀	1	イリコ・塩・煮物	1			2						別竹に鳴弦行事
㉛	ハツチヨウムタシモ 八町牟田下	2	ゴクサン・イリコ・塩				2	酒	1	3			
㉜	カミハティン 上八院	2	ゴクサン4個・イリコ・塩	1	1	3	2	酒					カザリ中央に菊結び
㉝~㉞	キチジョウ 吉祥	2	イリコ・塩				2	酒				無量院の御札(木版)	
㉟	ハツチヨウムタカミ 個人(八町牟田上)	2	ゴクサン・イリコ・塩				2	酒					稻葉ではなく、い草で作成
㉟	ヒルイケ 個人(蛭池)	1	ゴクサン・イリコ・塩										

※平成29・30年度の調査結果であり、年によって飾りの個数などが異なる

※表にあがってきていらないものは詳細調査を実施していない地区